

令和 7 年度
事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人信達福社会

事業報告書 目次

I	経営改善の重点	1
II	事業計画実施状況	1
1	法人全体	1
(1)	尊厳に根ざした介護とサービスの質の向上	
(2)	人材の確保と職員の成長を促す人材育成	
(3)	持続可能で未来志向の経営管理	
2	法人本部	4
(1)	法人運営	
(2)	計画の進捗管理と経営基盤の強化	
(3)	人材の確保と育成、業務改善の実施	
3	あつかし荘	7
(1)	特別養護老人ホーム	
(2)	ショートステイ	
4	梁川ホーム	12
(1)	特別養護老人ホーム	
(2)	ショートステイ	
(3)	デイサービスセンター	
(4)	ケアハウス広瀬	
(5)	梁川ホーム指定居宅介護支援事業所	
(6)	伊達市梁川地域包括支援センター	
5	川俣ホーム	18
(1)	特別養護老人ホーム	
(2)	ショートステイ	
(3)	デイサービスセンター	
III	事業報告の附属明細書	24
	市町村別・月別利用状況	24
(1)	あつかし荘	
(2)	梁川ホーム	
(3)	川俣ホーム	

令和7年度は、「安全・安心・ゆとり」の法人運営理念のもと「尊厳に根ざした介護とサービスの質の向上」「人材の確保と職員の成長を促す人材育成」「持続可能で未来志向の経営管理」に継続的に取り組んだ。

I 経営改善の重点

令和7年度は、介護・看護職員の採用や認知症対応力の向上、各種加算の取得などに取り組み、第2次経営改善計画の中間年度として一定の成果を得ることができた。

また、持続可能な経営をめざし、収支の月次分析を用いて施設の現状と課題を抽出し、次月のこれらに対する改善策を検討し実施するPDCAサイクルを継続した。

財務運営では、予算編成方針を定め、収入は過去の実績に基づく稼働率を設定し（設計稼働率）、支出は収入の90%以内とするなど均衡のとれた予算とし、収支バランスのとれた事業運営を目指した。

令和8年1月には、最低賃金を県が定める額を上回る額で設定し、人材確保と職員の定着を図った。

また、税理士及び社会保険労務士による指導を毎月実施し、適切な財務会計処理及び適正な人事労務管理に努めた。

稼働率については、特養ではあつかし荘と川俣ホーム、短期ではあつかし荘と梁川ホーム、デイサービスでは川俣ホームのⅠ型で設計稼働率を上回ったが、退所が重なったことなどから梁川ホームの特養が、体調不良や入院によるキャンセルの増加などにより川俣ホームの短期が、また、梁川ホームデイサービス、川俣ホームデイサービスⅡ型で設計稼働率を下回った。

あつかし荘と川俣ホームでは、新たな加算算定による収入確保を図った。また、梁川ホームでは猛暑対策のため補助金を活用してケアハウス廊下にエアコンを設置し、利用者の安全性・快適性を確保した。

令和7年6月に確認した梁川ホーム指定居宅介護支援事業所における不適切な事務処理の件を受け、地域に信頼される法人であり続けるために、法人としてコンプライアンス規程の制定を始めとする一連の体制を整備し、全職員を対象とする研修会の開催によりコンプライアンス意識の徹底を図った。

▼令和7年度設計稼働率と実績値

	特養		短期		デイⅠ		デイⅡ	
	設計	実績	設計	実績	設計	実績	設計	実績
あつかし荘	98.2	100.7	77.0	84.8				
梁川ホーム	96.9	96.1	66.0	84.7	78.0	78.9	52.0	50.9
川俣ホーム	97.0	99.6	73.0	67.5	74.0	76.8	55.0	44.0

II 事業計画実施状況

1 法人全体

(1) 尊厳に根ざした介護とサービスの質の向上

「地域から選ばれる施設づくり」については、梁川ホームが10月から開始した入所時の持ち物なしの「手ぶらショート」が好評を得ており、利用者全体の3分の1を占めるなど、ご家族の負担軽減と利用促進を図ることができている。

また、年間を通し、高齢者虐待防止や身体拘束適正化などの研修を繰り返し実施することで、虐待に関する認識を深め、虐待防止を徹底することができた。

「質の高いサービスの提供」については、認知症介護に係る各種研修を実施し、認知症への対応力が強化されているほか、栄養、健康管理、科学的介護の取り組みなど多職種連携による包括的かつ専門的なケアを継続して提供している。

ショートステイでは、口腔ケアを通じて咀嚼・嚥下機能の維持や誤嚥性肺炎の予防を図ることを目的として連携体制を整え、全施設で加算を取得した。

また、専門職によるチームケアとして、3施設のリハビリ担当職員が在宅高齢者におけるリハビリのニーズが高いことを受け、デイサービスやショートステイの利用者を対象とした法人独自の運動プログラムを考案した。試験導入後、改良を重ねて全施設に展開し利用者の運動機能を向上させ、広く法人の特色としてPRすることで利用者の獲得につなげていく。

▼実施状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績
虐待防止・身体拘束適正化研修関係参加回数	8回	9回
苦情受付件数	あつかし荘 0件 梁川ホーム 0件 川俣ホーム 0件	あつかし荘 0件 梁川ホーム 1件 川俣ホーム 0件
挨拶や言葉遣いに対する利用者・家族満足度（回答件数）	あつかし荘 100% (57件) 梁川ホーム 98% (76件) 川俣ホーム 96% (49件)	あつかし荘 97% (57/61件) 梁川ホーム 98% (73/73件) 川俣ホーム 100% (51/51件)

（2）人材の確保と職員の成長を促す人材育成

「人材確保と人事管理」については、令和7年7月に高校生を対象とした職場見学会を実施したほか、県北地域の高校への訪問や高校生を対象とした企業説明会に参加するなど積極的に求人活動を行い、令和8年4月、高卒2名の採用につながった。

また、経験者採用については、ハローワーク主催の就職面接会「介護就職デイ」に参加し、求職者に対し事業内容を直接説明し求人活動を行ったほか、介護助手募集支援事業を活用した新聞折り込みや川俣ホーム独自の地元就職説明会の開催など、あらゆる機会を捉えて求人活動を行い、多様な人材の確保に努めた結果、一部人材紹介業者の活用も図りながら、年度内に新卒者4名を含む24名の職員を採用し、施設運営に必要な人材を確保した。

時間外勤務の時間数は、体調不良職員の代替勤務や不適切な事務処理に関連した業務などにより法人全体で前年度比40%増となった。人員配置の整備や業務改善による時間外勤務の削減が課題となる。

「職員の成長を促す人材育成」については、外部講師による副課長・係長職を

対象とした全4回の管理職養成研修を実施したほか、新人研修、役職別研修、役職就任時研修を実施した。さらに、各施設においては、各種専門研修、ハラスメント研修、職員倫理・法令遵守等について、年間を通して計画的に実施し、人材育成に努めた。

また、2年目となる若手職員による業務改善プロジェクトでは、あつかし荘では「ICT機器の活用推進」、梁川ホームでは「レクリエーション活動の充実」、川俣ホームでは「おむつの適切な使い方」について改善に取り組み、業務改善活動を通して問題意識を高め、実際に業務改善が図られたほか、チームで解決する力を養うことができた。成果は法人全体の業務に反映させるとともに、今後も継続した活動として定着させていく。

▼実施状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績
就職説明会等開催回数（WEB含む）	8回	12回
採用人数（高年齢者・障害者）	27名・1名	7名・0名

※高年齢者 60歳以上

▼法人職員研修

日程	研修名（内容）	対象人数
令和7年4月8日	課長研修（就任時）	2名
4月10日	係長研修（就任時）	1名
4月14日	主任研修（就任時）	2名
4月16日	副主任研修（就任時）	2名
7月～10月	管理職養成研修（全4回）	15名
7月16日	課長研修（労務管理研修）	10名
7月31日	第三者評価出前講座	15名
7月～12月	実務者研修	3名
11月27日	厨房リーダー研修	3名

▼働きやすい職場づくり

項目	令和6年度実績	令和7年度実績
子の看護休暇取得者数	4名	6名
産後パパ育休取得者数	0/0名	1/1名
介護休暇取得者数	1名	8名
有給休暇平均取得日数	10.0日	10.7日
病気休暇取得者数	31名	22名
時間外勤務数	7,089時間	9,982時間

▼法人全体職員状況

項目	令和6年度	令和7年度	前年度対比
職員数（新卒採用含む） ※各年度4月1日現在	247名	267名	+20名
退職者数 ※各年度末現在	28名	30名	+2名
採用者数（新卒採用含む） ※各年度末現在	67名	24名	-43名
職員数 ※各年度末現在	266名	271名	+5名

▼施設別

項目	本部	あつかし荘	梁川ホーム	川俣ホーム	計
職員数	7名	55名	135名	74名	271名
平均年齢	50.2歳	49.0歳	50.9歳	52.3歳	50.9歳
男女比率	男性 57% 女性 43%	男性 31% 女性 69%	男性 26% 女性 74%	男性 34% 女性 66%	男性 30% 女性 70%
管理職のうち 女性職員割合	25%	50%	50%	100%	50%

※令和8年3月31日現在

(3) 持続可能で未来志向の経営管理

県による社会福祉法人の監査、及び梁川ホーム、あつかし荘に対し施設の監査、運営指導が行われ、概ね良好との結果であった。引き続き法令に則った健全な事務業務を遂行していく。

令和6年度策定した、施設設備の改修年次計画に基づき、梁川ホームではケアハウス広瀬の廊下空調整備を、あつかし荘では給湯設備の循環ポンプの更新を実施した。

情報発信については、ホームページに施設情報を随時掲載し、採用情報を速やかに検索できるように画面を改良した。さらに、施設情報については、Instagramを用いた情報発信も随時実施した。

また、川俣ホームでは、地域サロンへの出前講座を継続して実施し、情報発信と地域とのつながりの確保に努めた。

▼実施状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績
ICT・介護ロボット 導入機器	ナースコール更新 (梁川ホーム) 特殊浴槽整備 (梁川ホーム・あつかし荘)	ナースコール端末及び センサーマット (あつかし荘)
補助・助成金活用件数	6件	3件

2 法人本部

(1) 法人運営

任期満了に伴う理事・監事及び評議員の改選を実施した。理事会8回、理事書面決議1回、評議員会6回、評議員選任・解任委員会、監事会、懲戒審査委員会を下記のとおりで開催した。また、9月の理事会開催後に、役員研修として、「介護事故判例概説」と題し、法人顧問の千葉和彦弁護士による講演をいただいた。高齢者福祉施設における実際の介護事故判例に基づき、事業者としての法的責任について詳細な説明がされ、役職者の責任について理解を深めた。

▼理事会

回	日程	議案、評議員・理事・監事出席状況
1	令和7年 5月20日	評議員選任候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の招集、施設長の任命 等 理事 出席7名／欠席1名 監事 出席2名／欠席なし
2	6月2日	就業規程の一部改正、臨時雇用職員管理規程の一部改正、経理規程の一部改正、梁川ホーム指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正、伊達市梁川地域包括支援センター運営規程の一部改正、ケアハウス広瀬管理規程の一部改正、ケアハウス広瀬運営規程の一部改正、令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、ケアハウス広瀬の修繕費積立金及び修繕費積立資産の積立目的外使用取り崩し、ケアハウス広瀬、川俣ホームの補正予算、理事・監事候補者の選任、定時評議員会の招集 等 理事 出席8名／欠席なし 監事 出席2名／欠席なし
3	6月18日	理事長の選定、常務理事の選定、評議員選任・解任委員の選任、顧問の委嘱 等 理事 出席7名／欠席1名 監事 出席2名／欠席なし
4	7月28日	梁川ホーム指定居宅介護支援事業所における不適切な事務処理について、臨時評議員会の招集 等 理事 出席8名／欠席なし 監事 出席2名／欠席なし
5	9月10日	あつかし荘防火管理規程の一部改正、梁川ホームケアハウス広瀬防火管理規程の一部改正、川俣ホーム防火管理規程の一部改正、梁川ホームの備品等購入積立金及び備品等購入積立資産の積立目的外使用取り崩し、本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算、ケアハウス広瀬廊下エアコン設置工事契約の締結、評議員会の招集 等 理事 出席8名／欠席なし 監事 出席2名／欠席なし
6	10月9日	梁川ホーム指定居宅介護支援事業所における不適切な事務処理について、臨時評議員会の招集評議員会の招集 等 理事 出席8名／欠席なし 監事 出席2名／欠席なし
7	12月9日	経理規程の一部改正、梁川ホームの修繕費積立金及び修繕積立資産の積立目的外使用取り崩し、梁川ホームの備品等購入積立金及び備品等購入積立資産の積立目的外使用取り崩し、川俣ホームの備品等購入積立金及び備品等購入積立資産の積立目的外使用取り崩し、本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算、評議員及び理事、監事の報酬等に関する規程の一部改正、評議員会の招集 等 理事 出席8名／欠席なし 監事 出席2名／欠席なし
8	12月17日 【書面決議】	評議員及び理事、監事の報酬等に関する規程の一部改正、川俣ホーム拠点区分の備品等購入積立金及び備品等購入積立資産の積立目的外使用取り崩し、川俣ホームの補正予算 等
9	令和8年 3月10日	コンプライアンス規程の制定、就業規程の一部改正、給与規程の一部改正、本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算、令和8年度事業計画、令和8年度梁川ホームの備品等購入積立金及び備品等購入積立資産の積立目的外使用取り崩し、令和8年度梁川ホームの修繕費積立金及び修繕費積立資産の積立目的外使用取り崩し、資金運用計画、理事・監事の報酬、令和8年度当初予算、調理済食材購入契約、紙おむつ購入契約、役員賠償責任保険の締結、評議員会の招集、施設長の任命 等 理事 出席7名／欠席1名 監事 出席2名／欠席なし

▼評議員会

回	日程	議案、評議員・理事・監事出席状況
1	令和7年 6月18日 〔定時評議員会〕	就業規程の一部改正、指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正、伊達市梁川地域包括支援センター運営規程の一部改正、ケアハウス広瀬管理規程の一部改正、ケアハウス広瀬運営規程の一部改正、事業報告、決算報告、ケアハウス広瀬、川俣ホームの補正予算、理事・監事の選任 等 評議員 出席7名／欠席2名 監事 出席2名 出席理事 2名
2	8月6日	梁川ホーム指定居宅介護支援事業所における不適切な事務処理について 等 評議員 出席8名／欠席2名 出席理事 2名
3	9月18日	本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算 等 評議員 出席9名／欠席1名 出席理事 2名
4	10月17日	梁川ホーム指定居宅介護支援事業所における不適切な事務処理について 等 評議員 出席8名／欠席2名 出席理事 2名
5	12月18日	本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算、評議員及び理事、監事の報酬等に関する規程の一部改正 等 評議員 出席7名／欠席3名 出席理事 2名
6	令和8年 3月19日	コンプライアンス規程の制定、就業規程の一部改正、給与規程の一部改正、本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、地域包括支援センター、川俣ホームの補正予算、令和8年度事業計画、理事・監事の報酬、当初予算 等 評議員 出席6名／欠席4名 出席理事 2名

▼評議員選任・解任委員会

回	日程	議題、委員出席状況
1	令和7年 5月26日	評議員の選任 委員 出席4名／欠席なし 出席理事2名

▼監事会

回	日程	監査項目、理事・監事出席状況
1	令和7年 5月15日	本部、あつかし荘、梁川ホーム、ケアハウス広瀬、伊達市梁川地域包括支援センター、川俣ホームの事業報告及び決算計算書類案の監査 監事 出席2名／欠席なし 出席理事2名

▼研修会

日程	研修名	出席者
令和7年 9月10日	介護事故判例概説	理事8名、監事2名

▼懲戒審査委員会

日程	内容、委員出席状況
令和7年 10月9日	懲戒審査について 委員 3名/欠席なし
令和7年 10月16日	懲戒審査 委員 3名/欠席なし

（２）計画の進捗管理と経営基盤の強化

継続的な施設設備管理をするために必要な履歴や仕様等を記録した「施設カルテ」については、点検や事業実施後に随時必要事項の更新を行い、年度末時点で施設ごとに理事長決裁を受けている。さらに、令和７年８月以降は、施設設備の長期修繕計画を具体的に進めるため、建築士による指導を毎月実施し、現場確認や相談に対する助言に基づく事業の進捗管理を行った。

補助金・助成金等の活用については、梁川ホームのケアハウス廊下空調整備、あつかし荘のナースコール端末及びエアマットの購入、汚物除去機の購入に補助金等を活用した。このほか、各種研修受講経費に対する補助金の活用も行った。

令和８年２月に社会福祉連携推進法人東日本介保支援協会に加入した。この社会福祉連携推進法人は、福祉サービス事業者間の連携・協働を図るために制度化されたもので、災害時支援、経営支援事業等の取り組みのほか、国の施設大規模修繕補助金の申請要件となっていることから、この補助金を活用して修繕を進めていくこととしている。

（３）人材の確保と育成、業務改善の実施

積極的な求人活動を行い、令和７年度は介護士７名、看護師１名、介護支援専門員２名、生活相談員２名のほか、計２４名を採用した。

規程の改正では、給与規程のうち、職員採用時の経験年数加算や昇任・昇格等にかかる要件並びに看護師の資格手当等を見直した。また、懲戒処分の基準等を規定し、基準の詳細を定め、懲戒判断の客観性・公平性の確保並びに職員への事前周知による抑止効果の向上と内部統制の強化を図るため就業規程の一部改正を行った。

また、７月には、不適切な事務処理を機に、法人全体で日々の事務業務の総点検を実施し、全分野において異常が認められなかったことを確認した。

３ あつかし荘

（１）特別養護老人ホーム

近隣地域の高齢化率の上昇に加え、医療依存度の高い方や認知症高齢者などが増加していることを受け、令和７年度は、多様な利用者の受け入れができるよう対応力を高める研修や訓練を積極的に行った。

医療研修の派遣や内部研修、消防隊員の指導による心肺蘇生法の訓練等により急変時の対応を学んだほか、認知症介護については、認知症介護委員会と各居室担当者が協力して作成した認知症チーム推進加算ワークシートに基づき適切な介護を進めてきた。このほか、認知症介護研修派遣を継続し、施設内で伝達研修を行い周辺症状等の理解を深めることができた。

看取り介護においては、早期に主治医へ報告し急変に備えたことや日頃の小さな変化もご家族へお伝えし、好きなものを食べさせたい、苦痛なく見送りたい

などの本人や家族の意向に寄り添った支援に取り組んだ。

特養は、年間入院者3名、入院による空床は13日、また退所者は17名と前年度と比べ8名少なく、空床期間は年間延べ195日となり、前年度と比較し110日少なかったことなどから目標稼働率を上回った。さらにショートステイにおいては、空床情報を毎月発信し、利用キャンセルが出た場合にはすぐにケアマネや他の利用者家族へ連絡し利用勧奨を行い、また特養の空床利用を行ったことで目標稼働率を4.8%上回ることができた。

利用者の安全管理については、見守り機器のセンサーマット等の整備及びICTの活用（特にインカム機能）により、利用者の所在確認など迅速な情報共有が可能となり、転倒、転落事故件数は昨年度の19件から約3割減少し13件となった。

宿直職員廃止に伴い防犯カメラを設置したほか、消防総合訓練に施設内の煙体験を取り入れ、避難経路や避難方法などの訓練を行い職員の危機管理意識を高め、施設管理の徹底など夜間の防犯対策を講じることができた。

利用者家族懇談会を9月の敬老会行事と同日に開催し、行事の様子や満足度調査の報告、事業内容をお伝えするとともに、意見交換を行った。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 99.0%】	98.4%	100.7%	+2.3%
延べ利用者数	22,687人	22,800人	+113人
平均要介護度	4.00	4.03	+0.03
平均年齢	86.8歳	86.4歳	-0.4歳
平均空床期間	11.7日	10.7日	-1日

【令和6年度及び7年度は措置入所者1名含む】

① 介護係

各利用者の居室の整理整頓に努め、看取りの方には本人やご家族との写真を飾り、コーヒーなど嗜好品の香りを提供するなど、安心し、くつろげる空間作りができた。

また、年間を通し施設内の壁面に飾りつけを行い、季節感あふれる施設作りに取り組み、四季を感じていただくことができた。

認知症介護の理解を深めるため、マニュアル研修の実施や利用者一人ひとりの認知症ワークシートの評価、更新を毎月行い本人に寄り添ったケアに取り組んだ。

排泄介助におけるおむつの交換回数の見直しやICT機器の活用により業務改善を進めた。またレクリエーションに田植えやあんぼ柿作りなど利用者が慣れ親しんだ内容を取り入れた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
施設、居室内環境整備	施設内飾りつけ (4回) 居室内飾りつけ (1回)	施設内飾りつけ (毎月) 居室内飾りつけ (4回)	施設内飾りつけ (毎月) 居室内飾りつけ (4回) (15名)
認知症介護の知識習得	マニュアルの学習、 (1回/年) 県認知症介護研修受講 (3名) 認知症チームケア推進研修受講 (2名)	マニュアルの学習、 県認知症介護研修受講 (3名) 認知症推進ワークシートの評価と更新 (毎月)	マニュアルの学習、 (1回/年) 県認知症介護研修受講 (1名) 認知症推進ワークシートの評価と更新 (毎月)
集団・個別レクリエーションの実施	3.3回/週 (一)	3~4回/週 (30分)	5.6回/週 (38分)

② 看護係

感染症対策として、手洗いチェック、標準予防策を徹底し習慣づけることにより職員の感染症の対する意識を高めた。

協力医療機関の感染症認定看護師を招き、嘔吐処理方法の現地訓練を全体研修会で行い、初動対応を学ぶことができた。

そのほか消防職員の指導により、心肺蘇生法を学び急変時に備えた。

看取り介護においては、「最期までどう生きるか」をテーマに、本人やご家族の意向などの聞き取りを行い、それぞれの人生ノートを更新すると共にカンファレンスで話し合いを深め、その人らしい最期を見送ることができるように取り組んだ。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
感染症予防対策の強化 (マニュアルの見直し)	感染症BCP訓練 (年2回)	感染症BCP訓練 (年2回) 感染症研修 (年3回以上)	感染症BCP研修 (年2回) 感染症研修 (年3回)
看取り介護における利用者・家族の意向の把握	人生ノートの活用と更新 (年1回)	人生ノートの活用と更新 (2月・8月と随時)	人生ノートの活用と更新 (年1回・15名)

③ 生活相談係

特養は12月、1月に退所が重なったことや、他施設の利用中による書類等の準備など時間を要したが、優先入所対象者へ毎月1回以上の電話等での状態確認を行い、ご本人をはじめご家族の意向や状況に応じて面接を進めたことで目標稼働率を達成することができた。

ご家族や利用者対応のスキルアップとしてコミュニケーション研修を始め、カスハラ研修、苦情受付研修などに参加し、日頃より丁寧な電話対応や接客対応を行った。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
入所までの空床期間（全体平均）	11.7日	8日以内	10.7日
相談援助・苦情対応スキルの向上	事例検討・内部研修（年4回）	事例検討・内部研修（毎月）	事例検討・内部研修（年13回）

④ 機能訓練

運動を取り入れた集団レクリエーションを介護係と共同により利用者が楽しみながら実施できた。また個別機能訓練は、生活リハビリを通し歩行訓練や排泄動作の維持・向上に努め自立支援に努めた。

協力医療機関の理学療法士から褥瘡予防についてのポジショニングやシーティング方法の指導を受け、それらを介護士と共有し写真を撮るなど、実施方法の統一を図り改善に取り組んだ。

また、令和7年度から言語聴覚士による、嚥下状態を確認する水飲みテストの実施や個別に口腔体操などを行い、口からの食事を継続できるよう支援した。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
リハビリの実施	個別 1回／週 集団 2回／月	個別 1回／週 集団 4回／月	個別 2回／週 集団 2回／月
多職種間の情報（ポジショニング等）	1回／週	1回／週	1回／週

⑤ 栄養管理係

食事は利用者にとって健康維持や生活の質の向上につながることから、食欲増進のため敬老会や新年会行事では松花堂弁当のうつわにて提供し、ミキサー食の方には彩良く盛り付けを行った。郷土料理の芋煮やちまきなど利用者の方々と一緒に作り、懐かしさを感じていただきながら生活意欲の向上に努めた。

既往歴による制限食や褥瘡予防、低栄養者の栄養ケアマネジメントを実施し療養食の提供や栄養補助食品など体調の維持や褥瘡改善に努めた。

毎月の歯科医師及び歯科衛生士の訪問時に、口腔ケア方法の見直しや実施方法を学び、口腔ケアの手技や重要性の理解が深まった。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
季節の行事食	盛り付けや配膳の工夫 1回／月	盛り付けや配膳の工夫 1回以上／月	盛り付けや配膳の工夫 2回／月
低栄養リスク者割合	15%	15%以下	12%

⑥ 総務管理係

食器洗浄機や汚物除去機を更新し、安定したサービスを提供すると共に働きやすい環境を整備した。またICTのさらなる充実を図るためセンサーマット

の不足分の購入により、全利用者が見守り機器を利用できるよう整備し、転倒、転落の対策を進め利用者の安全、安心の確保に努めた。職員間の情報共有ツールのスマートフォンも追加し、迅速な対応ができ業務負担の軽減を図ることができた。

震度6強の地震を想定し、停電、断水に対する訓練を実施し、初期対応、職員の役割や具体的な動きを明確化しBCPマニュアルの更新を行い有事に備えた。

職員一人ひとりに合わせた連続休暇取得方法を見直しすることで、職員の心身ストレス緩和やワークライフバランスを意識し、プライベートと仕事の充実を図った。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
設備機器等更新・ICT導入状況	特殊浴槽入替	食器洗浄機 汚物除去機 センサーマット	食器洗浄機 汚物除去機 センサーマット
BCPに基づく訓練	訓練 2回／年 研修 1回／年	訓練 2回／年 研修 1回／年	訓練 2回／年 研修 2回／年
職員の心身ストレスの軽減 (ストレスチェック)	連続休暇取得率 (100%) 高ストレス者の割合 (24.4%)	連続休暇の取得率 (100%) 高ストレス者の割合 (20%以下)	連続休暇取得率 (100%) 高ストレス者の割合 (13%)

(2) ショートステイ

毎月の空床情報をホームページに掲載し、また居宅介護支援事業所への訪問により桑折町や国見町以外の方の新規利用獲得に努め、さらにキャンセル待ちを希望する利用者の日程等を事前に把握し、キャンセル発生時や特養退所等による空床期間などケアマネジャーやご家族と情報共有し利用につなげた。また特養入所前にショートステイ利用を提案し施設に慣れていただくことで稼働率の安定に努めた。

利用者の家族や居宅介護支援事業所宛ての満足度調査を実施し、ご要望からレクリエーション活動や利用中の様子の写真をお届けした。また利用日程の調整が迅速にされているとのご意見もいただいた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 80.0%】	79.4%	84.8%	+5.4%
一日平均利用者数	7.2人	8.6人	+1.4人
平均要介護度	3.00	3.06	+0.06
一人あたり平均利用日数／月	13.9日	10.6日	-3.3日
新規利用者数	25人	17人	-8人

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
利用実人数 (月平均)	24.1人	26人	25.9人
ケアマネへの空床 情報・サービス内 容の情報提供	3回/月	3回/月	8回/月
満足度調査の実施	家族 1回/年 満足度 100% 回収率 63% 居宅介護支援事業所 1回/年 聞き取り (19名)	家族 1回/年 満足度 100% 回収率 70%以上 居宅介護支援事業所 1回/年 聞き取り (随時)	家族 1回/年 満足度 100% 回収率 46.2% 居宅介護支援事業所 1回/年 聞き取り (12名)

4 梁川ホーム

(1) 特別養護老人ホーム

令和7年度は「利用者本位の介護」「職員を大切にした職場作り」「持続可能な経営」の3つの柱のもと、家族から信頼されるサービスの提供や職員のスキルアップ、効率的で働きやすい職場づくりに取り組んだ。

法令遵守の取り組みとして、身体拘束適正化・虐待防止委員会が中心となり、全職員を対象に規定のシートを使用し、虐待防止チェックを実施した。これにより、日頃の業務における言動や対応を振り返る機会を設け、チェックの結果を踏まえて各部署が具体的な目標を設定し、改善に向けた取り組みを進めることができた。

また、新人職員3名が入職し、プリセプターを中心に育成体制を整えながら指導を進めるとともに、新たに職員9名が喀痰吸引研修を修了し、利用者の安全・安心に繋がる体制づくりを強化した。感染症対策としては、発生時に速やかに関係部署による臨時の会議を開催し、情報共有と対策を協議し感染拡大防止に取り組んだほか、新たに「対応シート」を作成し、職員が適切に対応できる仕組み作りを行い、併せて実践に活かせるよう感染症研修を継続して実施した。その他、リフレッシュ休暇を取り入れ、働きやすい職場作りに努めた。

一方で、退所が34件と昨年より8件多く、入所までの調整に時間を要したことに加え、11月および2月に退所が集中したことで空床期間は32.75日と目標の平均10日以内には届かなかった。生産性向上の取り組みとしては議事録作成システムを導入したことにより、議事録作成にかかる職員の負担が軽減され、利用者ケアの計画や実践に時間を充てることができた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 98.5%】	98.4%	96.1%	-2.3%
延べ利用者数	28,731人	28,069人	-662人
平均要介護度	4.0	3.9	-0.1
平均年齢	90.4歳	89.6歳	-0.8歳
平均空床期間	13.6日	32.75日	+19.15日

① 介護係

令和6年度に導入した見守り支援機器を活用することで、タブレットや連動した手元のスマートフォンで利用者の状況把握が可能となり、訪室が必要かどうかその場で判断でき、その都度訪室して様子を確認する事が少なくなり、利用者の安眠に繋げることができた。またプライバシー保護の他、職員の負担軽減にも繋がった。行事は感染症対応で中止になったものが1回あったが、その他は毎月1回実施することができた。

内部研修に関しては、見守り支援機器、認知症の勉強会を行い、職員の知識、技術と利用者の生活環境の向上に繋げることができた。

今年度導入したリフレッシュ休暇では、介護職員の心身の健康の維持が図られ、利用者のケアの質の向上に寄与した成果がみられた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
事故件数	33件	30件	41件
計画的な全体行事の実施	年2回	月1回	月1回
内部研修会（介護技術・認知症介護）	年4回	介護技術2回 認知症介護2回	介護技術3回 認知症介護2回
連続休暇取得（5日間）	—	取得率100%	取得率100%

② 看護係

感染症拡大防止のため、感染症研修を年4回、各職種を交え計画的に実行した。また感染症研修や動画研修での学びを実践することで、発生時に速やかに対策を講じることができた。

タブレットを活用し怪我の患部等を画像で送ることにより主治医や他職種との情報共有がスムーズになり、適切な対応で入院者減に繋がった。また、動画研修を取り入れ最新の情報や処置の仕方について学ぶことで仕事のスキルアップに役立った。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
感染症（BCP）研修・訓練の実施	年4回	年4回	年4回
係内スキルアップ研修	—	係内全員受講	係内全員4回受講

③ 生活相談係

特養入所に向けて面接や書類請求等進めていたが、令和7年度は退所が34件と月平均3件前後の退所があり、平均稼働率96.1%と目標を達成することができなかった。また入所に至るまでの空床期間については、書類請求等の調整が進まなかったことにより、目標達成に至らなかった。

ボランティアや移動売店の活用促進は、利用者の要望・意向に沿って毎月参加を促し、意欲向上とメリハリある生活の支援を行うことができた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
入所までの空床期間	平均 13.6 日	平均 10 日以内	平均 32.75 日
ボランティア・売店の活用促進	—	ボランティア 8 回 ＜移動売店＞ 食料品週 1 回 衣料品毎月 1 回	ボランティア月 1 回 ＜移動売店＞ 食料品週 1 回 —

④ 栄養管理係

高リスク者割合目標である 10%以下の達成に向けて、栄養ケアマネジメント会議、ミールラウンド、サービス担当者会議などを通して各職種と連携し、利用者一人ひとりに適した栄養管理を実施した。その結果、個別対応の質は向上したものの、利用者の高齢化や多様な既往歴の影響により、低栄養リスクが高まるケースが多く見られた。

食中毒・災害時のマニュアルに関しては読み合わせや備蓄食品の保管場所の確認、フローチャートの再確認などを厨房職員で取り組むことができた。

クックチル方式を採用し 2 年が経過、食事提供をスムーズに行うことができています。事故件数は目標を達成し 3 件となっているが業務の慣れによる事故も発生しているため、事故内容や再発防止策を厨房職員に周知し事故予防に努めた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
高リスク者割合	15.9%	10%以下	22%
誤嚥性肺炎の発症	4 名	0 名	2 名
食中毒予防マニュアルの定期的訓練	—	年 2 回	年 2 回
非常災害時マニュアルの定期的訓練	—	年 2 回	年 2 回
厨房業務の事故発生	—	5 件以下	3 件

⑤ 機能訓練

食事姿勢や介助方法について多職種で検討し、安全な食事摂取に努めたが、誤嚥性肺炎は 2 件発生した。ポジショニングやシーティングを継続し予防に努めるとともに、多職種で情報共有を図り状態変化に応じた対応を行っている。

利用者の皮膚や身体の状態に応じてクッションやマットレスの見直し、ポジショニングの調整を行い、褥瘡の発生は 0 件だった。発赤が見られる利用者にも早期対応を行い、悪化の防止に努めた。

骨折は 2 件発生したため、身体状態や環境面を含めたリスクの評価と多職種での情報共有、介助方法の統一を図り再発防止に努めた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
誤嚥性肺炎の発症	4件	0件	2件
褥瘡の件数	1件	0件	0件
骨折事故の件数	2件	0件	2件

⑥ 総務管理係

時間外勤務の削減については、継続して業務見直し等を図り無駄を省き削減に努めたが、事務処理の増加や感染症対応、職員の病休等の理由に加え、複数業務の重複により、特定の事業所や役職者において時間外勤務の増加が見られた。

施設設備の整備については、文字起こし・議事録作成システムの活用により生産性向上が認められたほか、ケアプランデータ連携システムを導入し、今後の近隣の事業所との連携体制を整えた。また、夏場の暑さ対策が課題となっていたケアハウス廊下には、補助金を活用しエアコンを設置することができた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
時間外勤務の削減	396時間／月(前年度実績比13.1%増)	240時間／月(前年度実績比33.3%減)	558時間／月(前年度実績比40.9%増)
施設設備の整備	特殊浴槽更新、ナースコール更新(見守り支援システムの導入)	Web 利用請求システム導入、ケアプランデータ連携システム導入、送迎車両更新等	ケアプランデータ連携システム・議事録作成システム導入、ケアハウスエアコン設置工事等
B C P 研修・訓練の実施	事業継続計画(B C P)の整備	研修 年3回 訓練 年3回 見直しの実施	研修 年3回 訓練 年3回 見直しの実施

(2) ショートステイ

衣類等を施設で用意する「手ぶらショート」を開始し、家族の準備にかかる心理的・物理的な負担を軽減することができた。それに伴い利便性が向上したことで、継続的なサービス利用の定着に繋がった。

月2回の空き情報の定期発信と併せて、ショートステイの利用状況等について、居宅ケアマネジャーと迅速に情報共有したことで、急な利用や新規受入れに対し柔軟に対応することができ、稼働率の向上に繋がった。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働78.0%】	80.3%	84.7%	+4.4%
一日平均利用者数	16.1人	16.9人	+0.8人
平均要介護度	2.8	2.8	±0
一人あたり平均利用日数／月	13.07日	13.79日	+0.72日
新規利用者数	29人	39人	+10人

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
利用実人数	53人	52人	53.6人
新規利用者受入れ	月2.4名	月4名	月3.25名
空き情報の発信	月2回	月2回	月2回

(3) デイサービスセンター

空き情報やデイ便りの発信方法を FAX から郵送に変更したことで、カラーで見やすくなったとの声をいただいた。また、ホームページの QR コードを載せることにより、直近のデイでの活動内容も見てもらうことができた。1月から訪問理容サービスを開始し、ご家族から好評を得た。

山間部の利用者や要支援の利用者の新規相談に対し積極的に受入れを行った。担当ケアマネジャーに利用者の状況を報告する際に空き情報も併せて伝え、急な利用依頼等に速やかに対応することで利用者の確保に努め、事業所訪問なども行い利用者の獲得に努めたが、Ⅱ型については利用開始から短期間で施設に入所される方や、入院すると自宅に戻ることが難しい方が多かったことに加え、新規利用者が少なかったことから目標を下回った。

ICT機器の活用では、タブレットで利用者の皮膚状態などの写真をケアマネジャーへメールで送信し、情報共有を図ることができた。

▼運営状況【Ⅰ型（一般型）】

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働80.0%】	79.3%	78.9%	-0.4%
延べ利用者数	6,126人	6,083人	-43人
平均要介護度	2.6	2.6	±0
新規利用者数	27人	28人	+1人

▼運営状況【Ⅱ型（認知症対応型）】

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働59.0%】	63.0%	50.9%	-12.1%
延べ利用者数	2,337人	1,881人	-456人
平均要介護度	3.0	3.0	±0
新規利用者数	11人	6人	-5人

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
外部研修参加、内部研修開催	4回／年	5回／年	5回／年
介護予防体操の実施	—	毎日	毎日

(4) ケアハウス広瀬

新たに2組の夫婦が入居し2月から29名となったことで稼働率の向上に繋がった。

入居者の体調変化や精神的な変化に早期に気付くことができるよう、多職種

間での情報共有に努めた。体調等に変化が見られた場合は速やかに家族へ連絡し、病院受診に繋げることができた。

入居者間の相性や関係性に個人差があることから、不安や悩みに対しては話を伺う時間や場所などに配慮し、その都度傾聴し対応を令和6年度から引き続き行ってきた。

また、令和7年度は普段外出ができない入居者を対象に、近隣の店でのランチを計画した。他に町の文化祭に出展し、見学なども行った。年間で外出5回、慰問3回、調理行事3回実施し、コロナ禍では体験できなかったことを再開し、入居者同士の親睦を深めることができた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働率87.8%】	88.7%	90.0%	+1.3%
月初日平均入居者数 (定員30人)	26.9人	27.0人	+0.1人
平均介護度	要支援 1.5 要介護 2.8	要支援 1.1 要介護 2.3	要支援-0.4 要介護-0.5
入院延べ日数	10日	108日	+98日
平均年齢	89.4歳	90.1歳	+0.7歳

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
外出する機会の提供	2回(春・秋)	年4回	年5回
毎月の行事の充実	定期的に行事を実施した。ホームページに掲載し情報を発信した	行事内容を毎月1度はホームページに掲載する	月1回ホームページに掲載し、外出や慰問など充実した内容を発信した

(5) 梁川ホーム指定居宅介護支援事業所

不適切な事務処理に関しては、伊達市の運営指導のもと業務改善に取り組み、関係事業所との信頼関係の回復に努めた。

家族・関係事業所との連絡や相談対応をより丁寧に、確実にを行うことを意識した。利用者・家族の身体状態や、生活状況等の変化に対し、迅速・適切に対応できるよう医療機関や関係事業所と連携を図り、住み慣れた地域での生活が少しでも長く継続できるよう努めた。

ケアプランデータ連携システムを導入し、近隣の事業所との連携に向け、説明会に参加して職員間で内容を理解し、活用方法や業務効率化について話し合いを行うなど、運用に向けての準備を進めた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
居宅サービス相談件数	2,062件	3,430件	+1,425件
居宅サービス計画作成件数	1,852件	1,841件	-11件
要介護認定調査件数	46件	24件	-22件

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
請求件数	154件／月	180件／月	154件／月
職員数	4人	5人	4人
サービス内容の確認・振り返り	4回／月	4回／月	4回／月
地域活動への参加	1回／月	1回／月	1回／月

(6) 伊達市梁川地域包括支援センター

総合相談は年々複雑化してきており、1ケースが解決に至るまでの時間も要し、解決に向けて行政や関係機関との連携が必須となっている。今後、2050年問題に向け、身寄りのない高齢者や生活困窮者の増加が予想されるため、引き続き関係機関との良好な関係を構築し、あらゆる問題に対し最良の解決策が見つけられるよう努めている。

梁川地域包括支援センター主催の認知症カフェが定着し、毎回30名程度の参加があり、好評を得た。また、まちの駅やながわの協賛で9月に認知症の普及啓発の映画を上映することができ、認知症に対する理解を深める一助となった。

介護予防支援の居宅介護支援事業所への委託が進んでおり、月平均15件委託していることから、梁川地域包括支援センターでの請求件数は令和6年度の延べ180人から減少している。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
相談延べ件数	3,104件	3,681件	+577件
訪問件数	1,131件	1,543件	+412件
介護予防サービス作成件数	2,168件	1,968件	-200件
地域講座開催件数	6件	4件	-2件

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
請求件数	180件／月	195件／月	164件／月
認知症カフェ開催	13回／年 (包括主催4回 町内会等9回)	6回／年(包括主催)	16回／年 (包括主催4回 町内会等12回)
地域ケア会議	12回／年	12回／年	12回／年
介護保険や認知症の理解促進、普及活動	普及啓発13件 出前講座4件	出前講座、認知症サポーター養成講座の開催、地域活動の協力	出前講座3件 サポーター養成講座2件 普及啓発5件(映画上映含む)

5 川俣ホーム

(1) 特別養護老人ホーム

令和7年度は、特養全体で生活の質とケアの質の向上、そして安全な環境づくりに取り組んだ。利用者の中には100歳以上の方が5名おり、より丁寧で安全なケアが求められる状況でもあった。こうした状況の中、入所調整では、在宅生

活が難しい待機者に入所までの期間のショートステイ利用を提案した結果、空床期間は平均3.8日となり、稼働の安定につながった。健康管理では、協力医療機関との連携と日常観察を組み合わせ、小さな変化を早期に把握できる体制を維持した。また、感染症発症時の初動対応を標準化するため、すべての係でチェックシートを新たに作成し、拡大防止の仕組みを整えた。

生活の質向上に向けては、家族や外部団体が参加する行事の種類を増やし交流の機会を広げたほか、料理レクリエーションを通じて利用者が役割を持てる場面を増やし、日常生活の張り合いにつなげた。認知症ケアでは、認知症リーダー研修の受講や、認知症サポーター養成講座を開催し対応力の向上を図った。さらに、排泄ケアの統一を図るプロジェクトを実施し、利用者・職員双方の負担軽減につながった。

設備や環境面では、老朽化した設備の更新や不具合箇所への早期対応を進め、施設の安全性確保と安定した運営を支える取り組みを進めた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 98.6%】	99.8%	99.6%	-0.2%
延べ利用者数	23,667人	23,638人	-29人
平均要介護度	4.36	4.38	+0.02
平均年齢	90.7歳	90.8歳	+0.1歳
平均空床期間	9.9日	3.8日	-6.1日

【令和6年度及び7年度は措置入所者1名含む】

① 介護係

排泄ケアでは、業務改善プロジェクトとしておむつ交換回数の見直しやケア方法の統一を図り、利用者の安眠確保や肌トラブルの軽減につながった。また、着用方法をより適切な手順に見直したことで、漏れによる追加作業が減り、職員の負担軽減にもつながった。

行事や交流活動では、年間を通して計24回のレクリエーションや小規模な催しを実施し、日々の楽しみを提供した。猛暑を考慮して夏祭りを秋祭りへ変更し、新たにこども園との交流会も行った。子どもたちの歌や踊りに触れることで笑顔や手拍子が見られ、利用者の気分転換や活気の向上につながった。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
季節を感じ快適に生活できる環境整備	居室（4回/年） 共用スペース（不定期）	居室（毎月） 共用スペース（4回/年）	居室（毎月） 共用スペース（4回/年）
行事・イベントの実施（家族参加含む）	8回/年 （家族参加2回）	10回/年 （家族参加3回）	24回/年 （家族参加3回）
研修会等による知識習得（口腔衛生・認知症介護）	—	摂食嚥下、災害時ケア（2回/年） サポーター養成講座開催	摂食嚥下、災害時ケア（2回/年） サポーター養成講座開催

② 看護係

タブレット端末を活用し、検温や受診記録、画像による状態確認、音声入力などを取り入れることで業務効率化と情報共有の精度向上を図った。その結果、状態変化の共有が早くなり、画像記録によって職員間の認識のずれも減少した。また、入院時の看護サマリーを介護記録ソフトで作成できるようにし、事務負担の軽減にもつなげた。

誤薬事故が1件発生したが、情報共有の方法を見直し、配膳場所の統一や、呼名・食札照合・本人確認の徹底に取り組んだ。毎月実施する看護会議では服薬手順を再確認し、複数名での確認体制を継続したことで、事前にミスにも気づけるようになった。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
服薬に関する事故	誤薬事故1件	0件	誤薬事故1件
感染症予防・拡大防止	大規模クラスター (12月～2月)	0件	0件

③ 生活相談係

相談対応や家族への連絡を通じて安心して関われる環境づくりに努めた。入所調整では、退所見込みや待機順の変動を把握し、老健等の相談員へ早めに連絡することで空床期間の短縮に取り組んだ。

令和7年度は、他施設ショートステイや老健を長期利用している待機者も多く、居宅ケアマネと相談して4名がショートステイを経て入所へ移行し、受け入れ調整をスムーズに進めることができた。さらに、預り金契約を結ばない方に対する対応や、家族が遠方に住んでいるケース、近親者以外が身元引受人となっている場合にも個別に支援を行い、必要に応じて外出支援も行うなど、きめ細かな対応に努めた。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
入所までの空床期間	平均9.9日	平均9日以内	平均3.8日
外出・外泊等の支援	外出2件	外出・外泊3件	外出5件

④ 機能訓練

リハビリ計画に基づき、多職種で状態を共有しながら福祉用具の選定や環境を見直し、姿勢保持やシーティング方法などを居室に掲示することで介助方法の統一と安全な環境づくりを進めた。共有が進んだことで、環境調整や用具変更を必要なタイミングで行えるようになり、より適切な支援につながった。

個別機能訓練の様子は写真で記録し、ケアプラン送付時に添付したが、状態変化者への送付を想定していたため対象者が少なく、計画書の送付数は目標を大きく下回った。一方で、継続的な記録により利用者の変化を把握しやすくなり、

日常支援に活かすことができた。また、送付した家族からは「こんなに歩けるとは思わなかった」との声も聞かれ、取り組みの可視化が家族の理解促進にもつながった。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
多職種で利用者への介助方法を共有	1回／月	1回／月	1回／月
個別機能訓練実施の様子を計画書送付時に添付	1回／年 (18名)	1回／年 (35名)	1回／年 (9名)

⑤ 栄養管理係

咀嚼・嚥下状態や摂取量を日々確認し、低栄養の防止に取り組んだ。食事観察で得た情報を多職種で共有することで、姿勢保持や食事形態の調整が円滑に進み、支援の質も向上した。その結果、低体重が改善した利用者も見られ、栄養状態の安定にもつながった。

料理レクリエーションは7回実施し、おにぎり作りではおかわりをする姿が見られるなど、食への意欲向上につながった。また、芋煮作りでは自ら野菜を切る手伝いを申し出るなど、活動そのものを楽しむ様子もうかがえた。厨房では盛り付け例を見える化し、仕上がりの質を高めて利用者の食事の楽しみにもつなげた。クックチル方式採用から2年目となり、行事参加や毎日の献立放送を通じて利用者との関わりが増え、敬老会ではライブキッチンを実施して満足度向上につながった。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
経口維持計画書作成	61% (39人)	70% (46人)	70.8% (46人)
食に関する行事・イベントの実施	2回／年	5回／年	7回／年
嗜好調査・喫食満足度	—	75%以上	87%

⑥ 総務管理係

持続可能な施設運営のため、予算に基づく支出管理や契約内容の見直しを行い、必要な設備には適切に整備を行いながら無駄な経費を抑える運営に努めた。係内での定例的な情報共有により、不具合箇所の早期発見と対応が進み、施設全体の維持管理がより円滑になった。

B C Pに基づく研修・訓練では、災害発生から停電対応、炊き出しまでを想定した実地訓練と、風水害を想定した机上訓練を行い、初動対応や役割分担の重要性を再確認した。また、隣接する協力病院と同一敷地内で連携している特性を踏まえ、今回初めて合同で消防計画を作成し、防災体制の強化にも取り組んだ。

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
施設設備の充実	設備整備見送り	送迎車両更新 電話設備更新	電話設備更新
災害対応BCP研修訓練	訓練2回、研修4回実施	机上訓練 1回 対応訓練 1回	机上訓練 2回 対応訓練 1回

(2) ショートステイ

在宅生活の継続を支援するため、体操や運動レクリエーション、音楽・園芸活動、生活リハビリを継続して実施し、身体機能や認知症進行の予防に努めた。利用中の様子や活動内容は電話・手紙・広報紙などを通じて家族やケアマネジャーへ適宜報告し、在宅介護に活かせる情報提供を行った。

利用実人数は年間平均26.5名で目標（30名）には届かなかったものの、月別では22～32名と変動が大きく、30名を超える月も3か月あった。前半は単回利用や長期入院・入所が多く、継続利用につながりにくい状況が続いた。しかし、12月以降は長期入院者が減り、入院しても短期間で利用再開できるケースが増えたほか、利用希望があった際には速やかに実態調査を行う取り組みが定着し、受け入れ判断と調整を早期に進められるようになった。その結果、後半は稼働率が80%を超える月もあり、稼働改善に向けた動きが見られた。

▼運営状況

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働75.0%】	72.3%	67.5%	-4.8%
一日平均利用者数	10.8人	10.1人	-0.7人
平均要介護度	2.97	2.82	-0.15
1人あたり平均利用日数/月	10.9日	11.6日	+0.7日
新規利用者数	21人	31人	+10人

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
利用実人数	30名/月	30名/月	26.5名/月
レクリエーション・アクティビティ数（開催回数）	2回/週	2回/週	2回/週

(3) デイサービスセンター

利用者の心身の状態に応じた機能訓練・介護予防活動を実施し、在宅生活の継続を支援した。レクリエーションは個別性を重視し、創作活動・知的活動・交流など、利用者の状態に合わせた内容を提供したほか、Ⅱ型では近隣店舗での買い物を取り入れ、食べたいものを自分で選び購入する過程を通じて、選択・判断といった実行機能に働きかける認知症ケアも行った。また、訪問理髪サービスの導入を開始し、利用中に整容まで行えるようになったことは、家族やケアマネジャーから利便性の面で好評を得た。

外出行事は年間2回の目標を達成し、地域サロンには年間5回参加した。サロン参加を通じて、介護サービスの利用方法や認知症予防、レクリエーション活動

を地域住民へ紹介し、地域交流の促進やデイサービスの理解を深める機会となった。また、体を動かすゲームや指先のトレーニングになる活動などの新規アクティビティを毎月3種類導入する目標を達成し、活動の幅も広がった。

▼運営状況【Ⅰ型（一般型）】

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 75.0%】	74.1%	76.8%	+2.7%
延べ利用者数	3,369 人	3,544 人	+175 人
平均要介護度	1.61	1.72	+0.11
新規利用者数	15 人	15 人	±0 人

▼運営状況【Ⅱ型（認知症対応型）】

項目	令和6年度実績	令和7年度実績	前年度対比
稼働率【目標稼働 60.0%】	54.6%	44.0%	-10.6%
延べ利用者数	1,987 人	1,626 人	-361 人
平均要介護度	2.88	3.20	+0.32
新規利用者数	7 人	12 人	+5 人

▼事業目標の実施状況

目標計画	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
利用実人数（Ⅰ・Ⅱ）	Ⅰ型 37 名／月 Ⅱ型 22 名／月	Ⅰ型 40 名／月 Ⅱ型 22 名／月	Ⅰ型 34 名／月 Ⅱ型 19 名／月
外出行事の実施	1 回／年	2 回／年	2 回／年
各地区のサロンに参加	-	1 回／月	5 回／年
新規アクティビティ数	1～2 種類／月	3 種類／月	3 種類／月

Ⅲ 事業報告の附属明細書

令和7年度市町村別・月別利用状況

(1) あつかし荘

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町						入所	退所
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
令和7年 4月	3	0	1	6	8	3	2	20	18	2	0	63	0	2
5月	3	0	1	6	8	3	1	20	17	2	0	61	3	1
6月	3	0	1	6	9	3	1	21	17	2	0	63	1	1
7月	2	0	1	6	9	3	1	21	18	2	0	63	0	0
8月	2	0	1	6	9	3	1	21	18	2	0	63	0	1
9月	2	0	1	6	9	3	1	20	18	2	0	62	1	0
10月	2	0	1	7	8	3	1	21	18	2	0	63	0	1
11月	2	0	1	7	8	3	1	20	18	2	0	62	2	1
12月	2	0	1	8	8	2	1	20	19	2	0	63	2	4
令和8年 1月	2	0	1	7	8	2	1	19	18	2	0	61	3	3
2月	2	0	1	7	9	2	1	20	17	2	0	61	3	1
3月	2	0	1	7	9	2	1	21	18	2	0	63	2	2
合 計	27	0	12	79	102	32	13	244	214	24	0	748	17	17

※月初日の入所者数

※月初日入所者は、計と入所に重複する。

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計	1日平均人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町					延日数		
	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(人)	(%)
令和7年 4月	0	0	0	15	2	0	0	75	137	0	0	229	7.6	76.3
5月	0	0	0	18	2	0	0	100	130	0	0	250	8.1	80.6
6月	0	0	15	17	2	0	0	93	133	0	0	260	8.7	86.7
7月	0	0	4	16	2	0	0	101	154	0	0	277	8.9	89.4
8月	0	0	0	20	2	0	0	79	188	0	0	289	9.3	93.2
9月	0	0	0	16	0	0	0	72	161	0	0	249	8.3	83.0
10月	0	0	0	12	5	0	0	79	166	0	0	262	8.5	84.5
11月	0	0	2	9	8	0	0	82	158	0	0	259	8.6	86.3
12月	0	0	0	9	2	0	0	80	143	0	0	234	7.5	75.5
令和8年 1月	0	0	0	9	2	0	0	85	179	0	0	275	8.9	88.7
2月	0	0	0	9	2	0	0	80	154	0	0	245	8.8	87.5
3月	0	0	0	19	10	0	0	50	188	0	0	267	8.6	86.1
合 計	0	0	21	169	39	0	0	976	1891	0	0	3096	8.5	84.8

Ⅲ 事業報告の附属明細書

令和7年度市町村別・月別利用状況

(2) 梁川ホーム

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町						入所	退所
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
令和7年 4月	0	0	4	32	25	7	2	5	3	1	0	79	2	3
5月	0	0	3	31	26	7	2	5	3	1	0	78	0	3
6月	0	0	3	29	25	7	2	5	3	1	0	75	4	3
7月	1	0	3	31	25	6	2	4	3	1	0	76	4	3
8月	1	0	3	33	25	6	2	3	3	1	0	77	2	2
9月	1	0	3	35	23	6	2	3	3	1	0	77	4	1
10月	2	0	3	36	23	6	3	3	3	1	0	80	1	4
11月	2	0	3	35	21	7	3	2	3	1	0	77	4	6
12月	2	0	3	36	19	6	3	2	3	1	0	75	4	1
令和8年 1月	3	0	3	38	19	6	3	2	3	1	0	78	2	2
2月	3	0	3	39	19	5	3	2	3	1	0	78	3	5
3月	2	0	3	37	20	5	3	2	3	1	0	76	2	1
合 計	17	0	37	412	270	74	30	38	36	12	0	926	32	34

※月初日の入所者数

※月初日入所者は、計と入所に重複する。

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計	1日平均人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町					延日数		
	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(人)	(%)
令和7年 4月	0	0	0	336	68	52	0	14	53	0	11	534	17.8	89.0
5月	0	0	4	349	49	54	0	0	59	0	20	535	17.3	86.3
6月	0	0	3	396	58	51	0	12	54	0	9	583	19.4	97.2
7月	0	0	3	371	63	54	0	0	57	0	12	560	18.1	90.3
8月	0	0	8	337	51	55	0	3	56	0	20	530	17.1	85.5
9月	0	0	16	324	68	58	0	0	52	0	11	529	17.6	88.2
10月	0	0	17	343	48	52	0	3	42	0	2	507	16.4	81.8
11月	0	0	16	292	58	57	0	3	56	0	2	484	16.1	80.7
12月	0	0	20	307	53	37	0	0	57	0	0	474	15.3	76.5
令和8年 1月	0	0	24	284	68	30	0	0	60	0	5	471	15.2	76.0
2月	0	0	26	321	37	27	0	4	51	0	2	468	16.7	83.6
3月	0	0	24	329	69	30	0	5	50	0	2	509	16.4	82.1
合 計	0	0	161	3989	690	557	0	44	647	0	96	6184	16.9	84.8

Ⅲ 事業報告の附属明細書

令和7年度市町村別・月別利用状況

(3)川俣ホーム

特養

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	計	月内の異動	
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町						入所	退所
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
令和7年 4月	3	6	0	1	2	3	3	1	0	43	3	65	1	1
5月	3	6	0	1	2	3	3	1	0	44	2	65	1	2
6月	3	6	0	1	2	3	3	1	0	43	2	64	2	1
7月	4	6	0	1	2	3	3	1	0	43	2	65	0	0
8月	4	6	0	1	2	3	3	1	0	43	2	65	1	1
9月	5	6	0	1	2	2	3	1	0	43	2	65	1	1
10月	5	5	0	1	2	2	3	1	0	45	2	65	2	1
11月	5	5	0	1	2	2	3	1	0	45	2	66	1	1
12月	4	5	0	1	2	2	3	1	0	46	2	66	1	1
令和8年 1月	4	5	0	2	2	2	3	1	0	45	2	66	0	0
2月	4	5	0	2	2	2	3	1	0	45	2	66	0	0
3月	4	5	0	2	2	2	3	1	0	45	2	66	0	0
合 計	48	66	0	15	24	29	36	12	0	530	25	785	10	9

※月初日の入所者数

※月初日入所者は、計と入所に重複する。

短期入所生活介護

市町村別 月別	福島市		伊達市					桑折町	国見町	川俣町	その他	合計	1日平均人数	ベッド稼働率
	福島市	旧飯野町	旧伊達町	旧梁川町	旧保原町	旧霊山町	旧月舘町					延日数		
	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(人)	(%)
令和7年 4月	0	4	0	0	0	0	12	0	0	272	0	288	9.6	64.0
5月	0	4	0	0	0	0	11	0	0	276	0	291	9.4	62.6
6月	0	4	0	0	0	0	12	0	0	243	0	259	8.6	57.6
7月	0	5	0	0	0	2	14	0	0	269	3	293	9.5	63.0
8月	0	0	0	0	0	31	12	0	0	287	0	330	10.6	71.0
9月	0	1	0	0	0	20	15	0	0	262	0	298	9.9	66.2
10月	0	13	0	30	0	0	12	0	0	251	0	306	9.9	65.8
11月	0	15	0	30	0	0	12	0	0	250	0	307	10.2	68.2
12月	0	4	0	15	0	0	12	0	0	264	0	295	9.5	63.4
令和8年 1月	0	12	0	0	0	0	18	0	0	280	0	310	10.0	66.7
2月	0	5	0	0	0	0	18	0	0	328	0	351	12.5	83.6
3月	0	6	0	0	0	0	46	0	0	310	0	362	11.7	77.8
合 計	0	73	0	75	0	53	194	0	0	3292	3	3690	10.1	67.5